

# 保育の心理学

平成30年度  
前期 10問

問1 次の文は、発達に関する理論についての記述である。( A ) ~ ( D ) の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

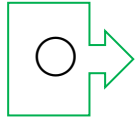
Bronfenbrenner (Bronfenbrenner, U.) は、生態学的システム論において、人が日常生活で直接・間接に関わりをもつ社会的文脈を、入れ子状の多層モデルとして示した。一人の子どもを中心とすると、第1層は、子どもと親の関係、子どもときょうだいとの関係、子どもと保育士との関係などがあげられ、(A マイクロシステム) と呼んでいる。第2層の (B エクソシステム) では、子どもが保育所に通っているならば家庭と保育所、子どもが小学校に通っているならば家庭と小学校との関係などを示している。第3層の (C メゾシステム) では、親の職業・職場、きょうだいの通う小学校などがあげられている。第4層は (D マクロシステム) と呼び、信念体系、価値観、法律、文化などの社会的文脈が第1層から第3層を取り囲んでいる。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	×

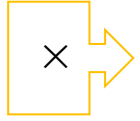
回答

3

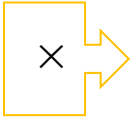
解説



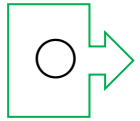
A 正しい 記述通りである。



B 誤り エクソシステムではなく、メゾシステムである。



C 誤り メゾシステムではなく、エクソシステムである。



D 正しい 記述通りである。

問2 次の文は、認知発達のメカニズムに関する記述である。【I群】の人名及び用語と、【II群】の内容を結びつけた場合の適切な組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A. ケーラーの洞察
- B. パブロフのレスポナント条件付け
- C. バンデューラの観察学習
- D. スキナーのオペラント条件付け

【II群】

- ア レモンを思い浮かべただけで、唾液が出てきた。
- イ 背伸びしても届かない所に置かれた玩具を取ろうとしていた子どもが、突然ひらめいたように、箱を踏み台として使った。
- ウ 正義の味方が活躍するテレビ番組が放送された翌日には、クラスでヒーローごっこが、いつもより盛んに行われた。
- エ ラジオ体操に参加するとスタンプがもらえるので、休まずに参加した。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	ア	イ	ウ	エ
2	イ	ア	ウ	エ
3	イ	エ	ア	ウ
4	ウ	ア	イ	エ
5	ウ	エ	イ	ア

- A ケーラーの洞察・・・届かない場所に置かれた玩具を取ろうとしていた子どもが、突然ひらめいたように、箱等を踏み台として使う様子である。
- B パブロフのレスポナント条件づけ・・・すっぱいものを思い浮かべただけで、唾液が出てきてしまうような現象である。
- C バンデューラの観察学習・・・正義の味方が活躍する番組が放送された翌日に、クラスでヒーローごっこなどが、いつもよりも盛んに行われている様子である。
- D スキナーのオペラント条件付け・・・ラジオ体操に参加するとスタンプがもらえるので、欠席せずに参加することである。

問3 次の文は、子ども同士のトラブルに関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 3歳頃に物や場所の取り合いによるトラブルが多いのは、自分の思いを言葉で表現することが十分にできないことが原因の一つであると考えられる。
- B. 子ども同士のトラブルへの保育士の対応として、どのような場合も見守る・待つ姿勢が大切である。
- C. ルールを守らないことによるトラブルが5歳頃に多く生じるのは、集団での遊びが活発になってきていることが一つの要因と考えられる。
- D. 子ども同士のトラブルへの対応として、5歳頃では、保育士は直接的に関与することはない。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	×

回答

3

解説

○

A 正しい 記述通りである。

×

B 誤り

子ども同士のトラブルに対して、どのような場合も見守る・待つ姿勢ではなく、保育者が仲立ちとなり、仲介することもある。

○

C 正しい 記述通りである。

×

D 誤り

5歳頃であっても、子どもだけで、トラブルが解決できない場合は、保育士が直接関与することもある

問 4

次の文は、人との関わりについての記述である。A～Dのうち、この記述と関連する用語を○、そうでない用語を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

長期縦断研究によって、自分の乳幼児期の親との関係性の質が、自分が親になった時の子どもとの関係性の質に一定程度、影響を及ぼすことが明らかになってきた。しかしその一方で、乳幼児期に望ましい親子関係を形成することができなかったとしても、適切で継続的なキーパーソンの存在によって、その後の人生において安定的な関係性を築くこともあることが示されている。

A. インクルージョン

B. レジリエンス

C. アタッチメント（愛着）

D. ソーシャル・アクション

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○



回答

4

解説

×

A. インクルージョン

インクルージョンとは障害の有無に関わらず分け隔てなく共に学ぶ仕組みをいう。

○

B. レジリエンス

○

C. アタッチメント（愛着）

×

D. ソーシャル・アクション

ソーシャル・アクションとは世論や行政に働きかけ、制度運営の改善を目指す活動。

問5

次の文は、乳児期の発達に関する記述である。( A ) ~ ( D ) にあてはまる語句の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

- ( A ) ができるようになると、自らの意志で自由に探索行動をするようになる。
- 舌、唇、あごの筋肉を協調して動かすことができるようになると、( B ) が出現する。
- ( C ) を獲得すると、遊んでいたおもちゃを隠されて見えなくても存在していることを理解している。
- 快・不快の表出から、次第に、喜び、悲しみ、嫌悪、( D ) など、感情表出が豊かになる。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	歩行	クーイング	アニミズム	怒り
2	歩行	喃語	アニミズム	恥
3	座位	喃語	アニミズム	怒り
4	歩行	喃語	物の永続性	怒り
5	座位	クーイング	物の永続性	恥

- (歩行) ができるようになると、自らの意志で自由に探索行動をするようになる。
- 舌、唇、あごの筋肉を協調して動かすことができるようになると、(喃語) が出現する。
- (物の永続性) を獲得すると、遊んでいたおもちゃを隠されて見えなくても存在していることを理解している。
- 快・不快の表出から、次第に、喜び、悲しみ、嫌悪、(怒り) など、感情表出が豊かになる。

問6 次の文は、ピアジェ（Piaget, J.）による感覚運動期に関する記述である。【I群】の記述と【II群】の内容を結びつけた場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A.第1次循環反応
- B.第2次循環反応
- C.第3次循環反応

- 【II群】
- ア ついたての後ろにおもちゃを隠すと、おもちゃを取るために、ついたてを取り除く。
  - イ テーブルの上にある積み木をつかみ、床に落としたあと、別の積み木を違うやり方で投げしてみるなど、いろいろ試してみる。
  - ウ 偶然自分の指が口に触れ、吸ってみた子どもが、そのことに興味があるというように繰り返し同じことをする。
  - エ 偶然、起き上がりこぼしを足で蹴って音が出ると、繰り返し足で蹴って音を出す。
  - オ 飛んでいるシャボン玉を目で追う。

(組み合わせ)	A	B	C
1	ウ	ア	オ
2	ウ	エ	イ
3	エ	ア	イ
4	エ	イ	ウ
5	オ	エ	ウ

## A 第1次循環反応

自分の指が偶然口に触れることで、吸ってみると、興味が出て、繰り返し同じことをするようになることである。

## B 第2次循環反応

偶然玩具を足で蹴って音が出ると、面白いことに気づき、繰り返し足で蹴って音を出すようになる行動である。

## C 第3次循環反応

テーブルの上にある積み木をつかみ、床に落とした後に別の積み木を違うやり方で投げるなど、様々な方法を試してみることである。

II群のアは物の永続性について、才は追視についての記述である。

問7 次の文は、幼児と他者とのかかわりに関する記述である。【I群】の記述と、【II群】の用語を結びつけた場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A. H君（男児）は、I君（男児）を追いかけている。保育室内を走り回っていたI君が「はあー、はあー」と言って大型積木の上に腹ばいになる。I君のあとを走っていたH君も大型積木のところへ来て「はあー、はあー」と言って腹ばいになる。I君が「あーあ、疲れた」と言って起き上がり、大型積木の上に「そーれ」と言って座り直す。H君も続いて起き上がって「そーれ」と言って座り直す。
- B. J君（男児）とK君（男児）は、登園するとすぐに「きのうのつづき」と言いながら部屋の隅で大型積木で囲いを作り始めた。次に「ロケット故障、ミッションコントロール、応答ねがいます」「ロケット修理、はじめます」と言いながら、J君が両手で積木を支え、そこにK君が積木を上のにのせて、2人で宇宙ステーションを作りあげた。
- C. 保育士が砂場に行くと、数名の女児が容器に砂を入れて小枝でかき回したり、砂を入れたカップに小石やちぎった葉っぱを散らしたり、容器に入れた砂を手でぱんぱんと固めようとしたりする姿が観察された。それぞれの子どもが思い思いに楽しそうにしているが、子ども同士のやりとりはみられない。
- D. 園庭に嬉しそうに飛び出したLちゃん（2歳、女児）は、5歳児クラスの子ども達がドッジボールをしている様子をじっと見ていた。Lちゃんは次に砂場に近寄って、4歳児クラスの子ども達が、砂山を作ったり、穴を掘っている様子をじっと眺めていた。「Lちゃんも一緒にやってみる？」と保育士が声をかけると、もじもじしながら後ずさりして少し離れたところでじっと遊びを見ていた。

【II群】

ア:協同遊び	イ:連合遊び	ウ:平行遊び	エ:ひとり遊び
オ:模倣	カ:傍観者の行動		

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	イ	ア	エ	オ
2	イ	ア	カ	エ
3	オ	ア	ウ	カ
4	オ	イ	ア	ウ
5	オ	イ	エ	カ

回答

3

解説

- A 記述は模倣についてである。
- B 記述は協同遊びについてである。
- C 記述は平行遊びについてである。
- D 記述は傍観者の行動についてである。

問 8

次の文は、心の理論をもっているかどうかを調べるための課題である。この課題について適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

M児とN児が部屋で一緒に遊んでいた。M児がボールをかごの中に入れた後、部屋から出ていった。M児が部屋にいない間に、N児がボールをかごの中から別の箱の中に移した。M児が部屋に戻ってきたとき、ボールを取り出すために、最初にどこを探すだろうか。

- A. 正答するには、他者が自分とは違う誤った信念（誤信念）をもつことが理解できる必要がある。
- B. 自閉スペクトラム症の幼児では、知的な遅れがなければ、定型発達児より早く正答する。
- C. 正答するには、他者の心の状態を推測することができる必要がある。
- D. 3歳になると、この質問に対してほとんどの子どもが正答することができる。

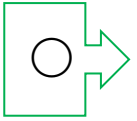
(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○



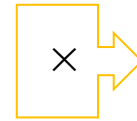
回答

3

解説

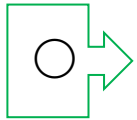


A **正しい 記述通り**である。

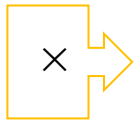


B **誤り**

自閉スペクトラム症は心の理論の獲得が困難であり、定型発達児より早く正答することは難しいといわれている。



C **正しい 記述通り**である。



D **誤り**

心の理論をもっているかを調べるための誤信念課題に正答できるのは、4歳以降であるといわれている。

問 9 次の文は、発達観についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A.子どもは生まれた時からさまざまな能力を有しており、環境に能動的に関わるという発達観は、20世紀初めに広がった。

B.「できる」「できない」で発達を捉える行為論的発達観と、「できることをやろうとする」「できないけれどやろうとする」という能力論的発達観がある。

C.発達は遺伝のみによって規定されるのではなく、社会・文化によっても規定される。

D.生涯発達において、青年期以降、知的能力は下降すると考えられてきたが、成人期におけるその人の経験によっては上昇する知的能力もあることが明らかにされてきた。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

回答

5

解説

×

A 誤り

記載されていたような発達観は、20世紀初めに広がったものではない。

×

B 誤り

「できることをやろうとする」「できないけれどやろうとする」は能力論的発達観ではなく、行為論的発達観である。

○

C 正しい 記述通りである。

○

D 正しい 記述通りである。

問 1 0 次の乳児と母親のやりとり場面についての記述を読んで、【設問】に答えなさい。

生後9～10か月頃になると、乳児の認識世界には大きな変化が現れる。乳児を抱いている母親が「ワンワンだね」と指し示すと、乳児は犬に視線を向ける。また、棚の上のおもちゃがほしい時に「アーアー」と言いながら身振りで母親に伝えようとする。

【設問】

次の心理学用語のうち、この記述に示されているものを○、そうでないものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A.三項関係
- B.共同注意
- C.共鳴動作
- D.情動調整

- A **正しい** 三項関係とは、子ども、他者、対象の3つからなる関係のことである。
- B **正しい** 共同注意とは、自分と他者が同じものに視線や注意を向けることである。
- C **誤り** 共鳴動作とは、目の前の人表情や動作を真似する乳児行動のことである。
- D **誤り** 情動調整とは、情動（感情）をコントロール（調整）することである。